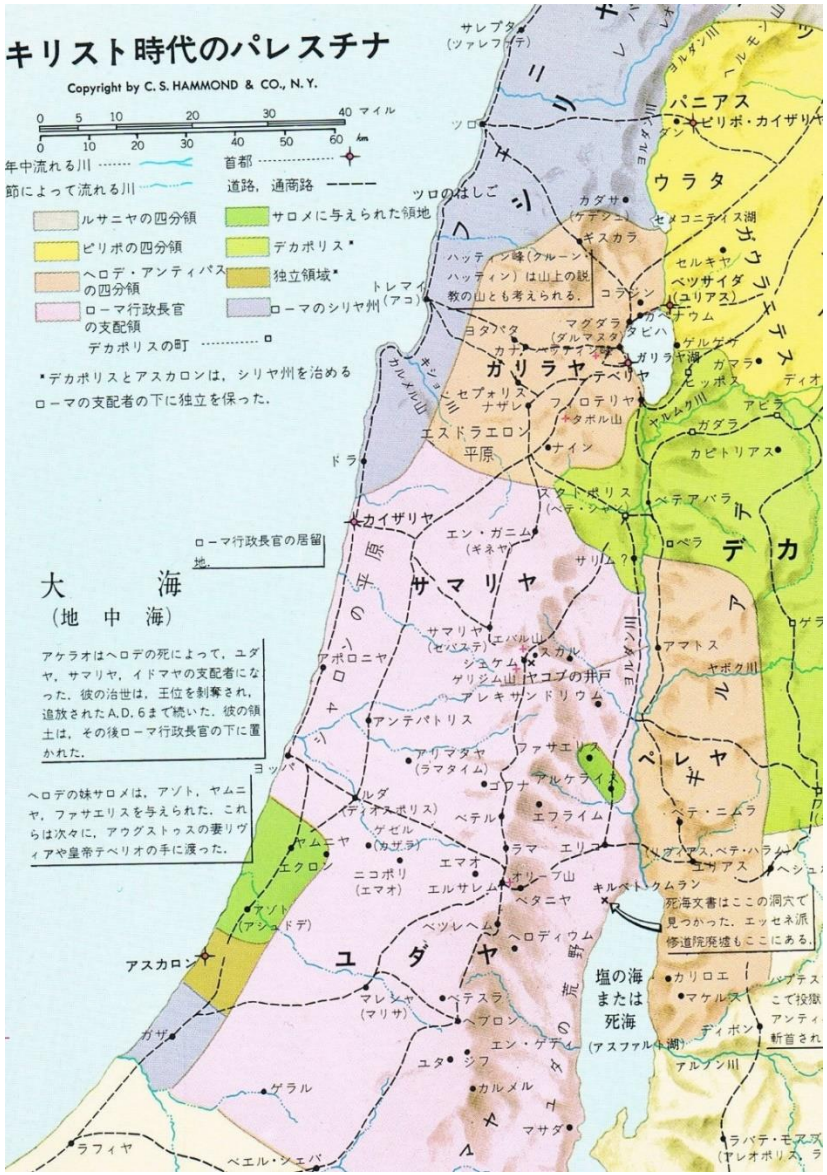

2021年7月4日　説教「世界宣教への踏み出し」

使徒の働き10章34～48節

今朝は長老教会の世界宣教週間。それに因んで聖書から学びます。

1．ペテロの派遣（34～38節）

①どの国の人でも（34～35）**「そこでペテロは、口を開いてこう言った。『これで私ははっきりとわかりました。神はかたよったことをなさらず、どの国の人であっても、神をおそれかしこみ、正義を行う人なら、神に受け入れられるのです。』」**使徒10章前半にはカイザリヤに駐在しているコルネリオというイタリヤ隊の百人隊長が、かねてより神を信じていて、ペテロを招くように導かれる事が記されます。彼はユダヤ人ではありません。しかし、ペテロはその経緯を聞き、これは神がなさった御業だと受け入れるしかありませんでした。そこで、ペテロは「はっきりとわかりました。」と述べて、「神は公平で、どの国の人であっても神を畏れかしこみ正義を行う人なら、神にうけいれられる」という見解を述べたのです。

②すべての人の主（36）**「神はイエス・キリストによって、平和を宣べ伝え、イスラエルの子孫にみことばをお送りになりました。このイエス・キリストはすべての人の主です。」**ペテロはそのことを整理して述べます。つまり、神はイエス・キリストを通して、まずはイスラエルの民に平和の宣べ伝え、御言葉を送られたこと。次に、キリストはユダヤ人だけでなく、すべての民にとっても主となる方であることが伝えられます。

③イエス・キリストの働き（37～38）**「あなたがたは、ヨハネが宣べ伝えたバプテスマの後、ガリラヤから始まって、ユダヤ全土に起こった事がらを、よくご存じです。それは、ナザレのイエスのことです。神はこの方に聖霊と力を注がれました。このイエスは、神がともにおられたので、巡り歩いて良いわざをなし、また悪魔に制せられているすべての者をいやされました。」**そして、キリストについて伝えます。キリストはバプテスマのヨハネの働きの後に、聖霊と力をもって、宣教を開始されたことを確認。この方はナ育たれたイエスで、ユダヤやガリラヤで働きをされ、悪魔につかれた者たちを解放する救い主であることを伝えました。

2．キリストの福音（39～43節）

①キリストの十字架と復活（39~40）**「私たちは、イエスがユダヤ人の地でエルサレムとで行われたすべてのことの証人です。人々はこの方を木にかけて殺しました。しかし、神はこのイエスを三日目によみがえらせ、現れさせてくださいました。」**ペテロは自分達がイエスについての証人であることを伝えました。そして、人々が「イエスを十字架につけよ」と叫んで十字架上で死なれたこと、さらに、三日目によみがえられたこと、人々の前で復活の体をもって働かれたことを証

しました。

②証人である私たちが（41～42）**「しかし、それはすべての人々にではなく、神によって前もって選ばれた証人である私たちにです。私たちは、イエスが死者の中からよみがえられた後、ごいっしょに食事をしました。イエスは私たちに命じて、このイエスこそが生きている者と死んだ者とのさばき主として、神によって定められた方であることを人々に宣べ伝え、そのあかしをするように、言われたのです。」**復活の主は、12 弟子たちや 500 人以上の人々に現れました（Ｉコリント 15:5,6)。その人たちは復活の主と食事を共にすることすらしたのです。しかし、当時のすべてのクリスチャンが復活の主に出会えたわけではありません。だからこそ、その証人となった者たちが、十字架と復活の福音を宣べ伝えるように導かれたのだと証しました。

③信じる者への赦し（43）**「イエスについては、預言者たちもみな、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しが受けられる、とあかししています。」**そして肝心な事として、このキリストを信じる者は、誰であっても、その御名のゆえに罪の赦しをいただけるのだと伝えたのです。そして、これは預言者たちもこぞって教えていたことでありました。

３．異邦人の救い（44～48 節）

①聖霊がくだり（44~45）**「ペテロがなおもこれらのことばを話し続けているとき、みことばに耳を傾けていたすべての人々に、聖霊がお下りになった。割礼を受けている信者で、ペテロといっしょに来た人たちは、異邦人にも聖霊の賜物が注がれたので驚いた。」**さて、ペテロは熱心に福音を伝え続けていましたが、御言葉を聞いていた人々に聖霊が下ったのです。それは、すでにキリストによって救われたユダヤ人クリスチャンにとっては驚きでありました。彼らには、あの聖霊降臨の時に、弟子たちに現れた圧倒的な出来事と共通の賜物が与えられていましたが、今ここに異邦人であって、信者となった者たちにも現れたからです。

②聖霊を受けた人々（46~47）**「彼らが異言を話し、神を賛美するのを聞いたからである。そこでペテロがこう言った。『この人たちは、私たちと同じように、聖霊を受けたのですから、いったいだれが、水をさし止めて、この人たちにバプテスマを受けさせないようにすることができましょうか。』」**つまり、ペンテコステの日に御霊に満たされた弟子たちは、彼らの知らない外国語で話し始めましたが、その後にもクリスチャンになった人々には異言の賜物を持つ者がいたのです。それがこの異邦人にも現れ、彼らは神を賛美していました。それを見て、ペテロはこの人達のうちに確かに主が働いて、聖霊を受けたことを確認し、異邦人でクリスチャンになった人たちに洗礼を授ける道を語ったのです。

③バプテスマ（48）**「そして、イエス・キリストの御名によってバプテスマを受けるように彼らに命じた。彼らは、ペテロに数日間滞在するように願った。」**それらは明らかに、神から出たものであることが確認されたわけですから、ペテロは彼らにイエス・キリストの御名による洗礼を授けるように命じたのです。神の恵みに基づく、信仰によって、彼らが救われたということのしるしとして、洗礼を授けるということです。彼らがペテロに数日間の滞在を願ったのは当然でした。

《結論》　もう 48 年も前に召されたクリスチャン作家に椎名麟三という人がい
ました。元々は実存主義者でしたが、復活の主と出会いクリスチャンとなった
椎名は、復活の主がムシャムシャと魚を弟子達と食べる場面にリアリティーを
感じたといいいます。(「私の聖書物語」より)。今朝の記事の中でも、ペテロ
が復活の説明をするのに復活の主の食事をしたことを伝えています。

さて、今朝の聖書箇所にはユダヤ人から見れば、イタリヤ人の百人隊長コルネリオやその周囲の者達などが、キリストの福音を聞いたことから生じた大きな転換について記されています。つまり、イエス・キリストは、主にユダヤとガリラヤ地域で伝道をしました。サマリヤの女などへ関わりはありましたが、ほとんどはユダヤ人に対しての宣教でした。キリストが十字架上で死に、葬られ、復活し、昇天までも、関わりのほとんどはユダヤ人でした。また、聖霊降臨の出来事後に、エルサレムにキリスト教会が始まってからも、その教会はユダヤ人たちで構成されていました。

しかし、キリストの福音はユダヤ人の中だけにとどまることはありません。それは、復活の主が「すべての国民を弟子としなさい」というご命令にも基づいています。とはいえ、弟子達も積極的に異邦人宣教を開始しませんでした。ところが、弟子たちのリーダーのペテロは夢を見て（汚れた動物を食べなさいと促される）て、コルネリオのいるカイザリヤに行くように促されるのです。そして、コルネリオと会い、彼のうちに起きた霊的な導きを聞いて、ペテロは心の内に大転換を迫られます。そこで、まずはキリストの生涯と十字架、復活、罪の赦しについて説き明かしました。そうこうしている間に、御霊が下り、そこにいる者達は聖霊に満たされたのです。彼らのうちに聖霊の賜物が確認されました。ペテロは異邦人の信仰と救い、彼らへの洗礼を認めます。これは、いわば旧約時代からの、「神の民の概念」が大転換。世界宣教への踏み出しでした。

みなさん、私たちもユダヤ人から見れば異邦人です。にもかかわらず、この福音がこの民にも有効であることは、日本のプロテスタン

ト 150 年余りの歴史を見るだけでも明らかです。宣教師たちの献身もあって、福音は私たちにも届けられたのです。ところが、この国でクリスチャンになった者達もいつの間にか、神の民として、ユダヤ人クリスチャンが持っていた保守性を持つようになってしまいやすいのです。「この国のキリスト教会は弱体なのに、どうして外国に福音宣教などするのか」という意見にも影響されます。とはいえ、キリストを知り、学ぶことにより、海外での宣教に従事したいという人々（宣教師、働き人）が生まれてきます。それがキリスト教なのです。日本長老教会でも「海外宣教報」をご覧のように、宣教師たちがいます。彼らもどこかでキリストを主としました。「福音」はもともと、国際性があるのです。キリストの福音は国、民族、人種などを越えさせるのです。宣教師は言葉や文化などの違いによる困難がありますが、大いに用いられる面をもっています。キリストに救われた者たちは、「神はかたよったことをなさらず、どの国の人々にも」(34) という御言葉に教えられて、ペテロが一歩踏み出したように、私たちも踏みだして、世界宣教と宣教師たちのために、祈っていきましょう。ささげていきましょう。